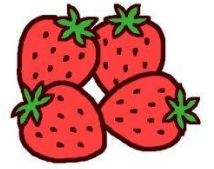




あかるく元気な子 だれにも親切な子 しつかり考える子 ことばを大切にする子

イチゴをひとくちかじってみれば、 香るふるさと 阿太ロマン

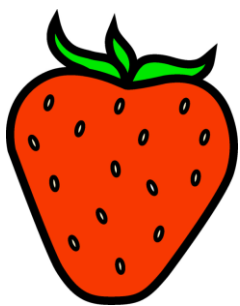


○今年は、1年生から3年生までの児童がイチゴ狩り体験に出かけました。前日の雨もやんで気持ちのよい青空が広がる中、ふるさとの香りや魅力を肌で感じながら、口の中いっぱい甘さが広がるイチゴをほおばる子どもたちの顔にも、自然と笑顔が広がります。

地域の方のご厚意で様々な体験をさせていただける“あだっこ”は、本当に幸せです。ありがとうございました。



ただ、そのイチゴを食べて「おいしかったなあ。また来年も食べたいなあ。」と思うだけでなく、その一粒のイチゴから何を感じ取るか、何を学ぶかが大切です。「してもらっただけで終わらない」を合言葉に、今後の活動を積み重ねていきたいと思います。



○ところで、左のイラストのようなイチゴ。みなさんが食べている赤いところが実、表面のツブツブがタネ、と思っている人が多いのではないのでしょうか？

これが、なんと誤りなのです。

このイチゴの赤い部分は実ではなく、雌（め）しべの土台となる部分で「花托（かたく）」と言います。また、その表面にあるツブツブはタネではなく、この一粒一粒が実なのだそうです。そして、その実の一つ一つの中にタネが入っているのだそうです。その小さなタネが「花托」表面で発芽すると、右の写真のようになるそうですよ。



○さらに、イチゴと言えば、各地で様々な品種改良がなされ、「あまおう」「とよのか」「あすカルビー」「べにほっぺ」などと名付けられて売り出されています。それに負けずに、近い将来、イチゴ狩りを体験してきた“あだっこ”の中から、「阿太ロマン」と名付けられたイチゴを売り出す人が現れるかもしれませんね。